第４回のセミナーを７月８日(土)　13:30～15:30 に開催しました。

会　場：愛知文教大学　２０１教室・３０５教室

テーマ　学び合う学び：学習指導要領：GIGA スクール構想

講　師　学び合う学び研究所フェロー　神戸　和敏　先生

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、ICT をどう使うかではなく、ICT で何を学ぶかという視点です。 ICT 研修では教員視点の使い方の研修がほとんどです。しかし、実際に使うのは子どもで、ICT で学ぶのも子どもです。実際にその視点に立って活動を行えたことがよかったです。子ども同士が繋がれる環境を提供することは大切だと思いました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、子どもがＩＣＴをどう使うかということです。 パソコンやタブレットをただ単に授業内で使うことが ICT を使う授業になり得るというわけではありません。生徒のレベルや実情に合わせた教材を段階的に提示し、対話を促していく中で深い学びへとつなげていく必要があることを再認識しました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、子ども主体の ICT 学習です。 教師目線の ICT から子ども主体の ICT の活用について学ぶことができました。一斉授業の視点からでは、誰ができて、誰ができなかったかを知るということが重要です。それは、達成度のチェックという役割となります。マスコミでもそのように取り上げられることが多かったので、なんとなく腑に落ちないものを感じました。教師は、達成度を見るのが仕事なのかと思いました。 そうではなくて、生徒がどのようにつながれるかのための方法としての ICT について学ぶことができました。子ども主体という言葉を、神戸先生が何度も言われていたのが、心に残りました。実際に、生徒同士がつながって学習する方法を教えていただきました。 理論と実践がリンクしている大変有意義なセミナーでした。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、ICT をただ使うのではなく、生徒同士が協働して課題解決するために活用するのが大切だということです。 ICT がない場合は、近くの仲間数人としか話し合えませんが、ICT の活用によって、共有された全員の考えをもとにして話し合えるようになることが分かりました。 普段 ICT を使っていても、生徒のための使い方ができているのか疑問でした。今日のセミナーで、やはり生徒のための使い方にはなっていなかったことが分かりました。そして、どのような使い方が良いのか、そのヒントをいただくことができました。今日の学びをもとに、授業づくりを見直していきたいです。ありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、ICT の活用に関する改革の方針を示した資料の内容は主として「教師」が主語になっていますが、「子どもの学習のあり方がどのように変わるか」に着目して ICT ツールの活用方法を考える事が重要だと思いました。 SAMR モデルについて、M や R にあたる学習の質的変化は、S,A の量的な使用頻度の増加、事務的・教具的使用を経て構想することができるというモデルとこれまで捉えていました。つまり「習うより慣れろ」式で、ツールの操作に習熟すればやがて有効な活用の仕方を考えられ

るようになるというプロセスを想定していました。
　しかし今回の後半のワークを通して、そのようにボトムアップ式に親しんでいくだけでなく、ICT の導入によって学びの質がどのように変容するかのビジョンを教師が持つということが大切なのだと感じました。
　また、前半の議論で ICT ツールが指導要領の求める学びや学び合う学びにどうつながるかを考えた際には、ツールによって行える学習活動の可能性は広がる一方、教師の力量、判断が試されることに気づきました。例えばインターネットは教室の中で子どもがアクセスできるリソースの量を飛躍的に増大させますが、検索により見つかった特定の回答に子どもの反応が収束してしまった場合どうするのか、その回答の内容が教師にとっても望ましいものであった場合それをどう捉えるべきか等の問題がつきまといます。子どもの動きを想定して意味ある学習課題を設定する力が求められると考えました。

　今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、１人１台の端末で何につながっているか？です。
　子ども同士がつながる ICT になるのは、結構大変なハードルがあることがわかりました。後半の実習では、教師とのつながり、ペアのつながり、子ども同士のつながりが、実際の授業ではどういうイメージなのかが、よくわかりました。
　まだまだ ICT が、よそいきでしかない現実を思い知らされました。

　今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、ＩＣＴをどう活用するかを考えるのは、児童生徒自身であることです。
　神戸先生、ありがとうございました。
　堀田先生のおっしゃる「残念な」使い方しかできていない教師の一人であり、耳が痛かったです。どうしても、使う・使わない、どう使う・・を教師側で指示してしまっています。
　これだけＩＣＴのある生活が当たり前になっている中で、日本の学校という場がそれとかけ離れているのは、生徒にとって学校は魅力のない場になると危惧します。ただ、その中にあって、生徒たちは今できる範囲で自由に使い始めているようにも思います。制限を欠けること自体が生徒主体ではなくなっていると思うのですが、現実はなかなか理解されません。
　何をどう活用すれば・・のためにも、教師が体感してみることというのは身にしみて感じます。やってみているうちに授業アイデアも生まれてくるのではないでしょうか。神戸先生がおっしゃっていた「授業研究会での活用」はすぐにでもできそうですね。本校でも Teams に「現職教育」の Team がつくってあり、今度活用すると聞いています。楽しみです。

　今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、学ぶのは子ども、教養を高め、学びのたねをキャッチするを学びました。
　神戸先生ありがとうございました。お話を伺って、頭がすっきりし、ビションがちょっとクリアになった気がしています。
　学級経営（特活・生徒指導）のケアリングベースの学び合う学び。学びそのものも、ＩＣＴやＧＩＧＡスクール構想のおかげで、日本語教育が必要な子どもを含め、特別の支援や配慮が必要な子どもが救われ、すべての子どもの学びが保障されています。
　また、学びの可能性がこれまで以上に高まっています。総合的な学習の時間の創設時、小牧

市の教員や地域の仲間と本気で探究しました。そのときに共有したエビデンスがホンモノと出会うことでした。

先週のブラタモリが木曽三川でした。小牧の５年生がたいへんお世話になった海津市歴史民俗資料館学芸員の水谷さんが大活躍なされていました。神戸先生のおかげで、小牧市ではかなり以前から、ＩＣＴなどの先駆的な教育に挑戦してきました。水谷さんなどの専門家やホンモノと数限りなくつながり、とても貴重な財産となっています。

さらに、デジタル化を進めてきたおかげで、これまでの探究や研究がデータ・財産として蓄積されています。神戸先生からさまざまな視点や見方・考え方を教えていただき、今、ここで、こんなに、これほど手軽に、学びの可能性があるのかと分かりました。

小牧市夏季教職員研修会でもお世話になります。また、ご示唆やご指導がたのしみです。これからもどうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、今までは教員目線で ICT の活用方法について語られることが多かったが、それでは既存の一方通行の指導と変わらないということ、求められているのは子ども目線でいつどのように活用しなければならないかという視点であるということが重要だと感じた。

教員の力不足により、子どもたちの ICT 教育に格差が出てしまってはいけないので、教員に対しての ICT 活用例等を共有する必要がある。（すでに国が例として挙げているものを、まずは少しずつ取り入れるのが良いと思う）また、ICT 環境や活用例について、残念な学校が５割もあるということに驚いた。多くの学校は郊外や田舎であるので、通信環境設備は最優先されるべき。

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、一人一台端末の真の意味を理解し、授業の在り方を再構築することです。

ＰＣ教室で一人一台端末を使った、個のみでの学び、（全体をモリタリングしながらの）ペアでの学び、全体でのモニタリングをベースとした学びを、学習者の立場で体験することができた。ともすれば、個で追究すること＝主体的であると思いがちであるが、授業の在り方と同時にその中で学習者がどのように学んでいるかをしっかり観ていくと、そうではないことを改めて実感した。

合わせて、子どもたちが今後どのような社会を生き、そのためにどのような力が必要なのかをいつも念頭に置くことが必要である。

そうしたことを踏まえて、授業で何をどのように学ばせるのか、もう一度考え直すことが求められているのだと感じた。